

2016 連合北海道はたらく女性の集会

2016年9月3日（土）13時から、「2016 連合北海道はたらく女性の集会」がホテルノースシティ札幌で行われました。この集会は、女性が職場でいきいきと前向きに働き続けるためのさまざまな情報を共有することを目的に、毎年開催しています。今年は直前に台風10号による河川氾濫等の災害が発生し、交通網の寸断や災害対応のため参加予定者が急きょ参加できなくなったという報告も数件ありましたが、10産別2地協からあわせて80名が参加しました。

冒頭、山田悦子女性委員会委員長から、「先日最低賃金が結審し、22円の引き上げが決まった。私たちは賃金が上がって女性もどんどん働ける状況になることを望んでいるが、育児や介護への男性の参加が進まないという女性が働く状況にはならない」という挨拶がありました。つづいて、広田まゆみ道議、畠山みのり道議、篠田江里子札幌市議の3名の来賓を代表して広田道議から、「先の台風で農業と漁業の被害は甚大だが、北海道は9月、10月が観光シーズンであり、発信も重要である」と挨拶がありました。



つづいて、一般社団法人ビームスプリング代表理事の小川聖子さんから「働く女性のためのコミュニケーション」というテーマで講演を受けました。小川さんは歯科医院でマネージャーとして働いていた時に、仕事でうまくいかないことがあると人のせいにするのが多かったそうですが、コーチングという手法に出会い、現在は「人にはもともと備わっている力がある」という基本的考えのもと、「よく聞き、よい質問をすることで、自発的な答えを引き出し、行動化を促すことができる」というコーチングの研修を企業や自治体などを対象に行っています。小川さんによると、コミュニケーションで言語によるインパクトはわずか7%で、残り93%が非言語のものだそうです。例えば癖でよく腕組をする人は、本人は無意識なのに、威圧的な印象を与えてしまいます。自分の態度が相手に影響してしまうので、相手に対しまっすぐ向く、うなづく、目を合わせるなど友好的な態度をとることが大事です。



隣の席の人とペアになってのワークも行いました。会話で、相手に質問しておきながら話をとったり評価をしたりすると、相手の満足度は低く、これがレベル1。次のレベル2は、相手の言うことをしっかり聞き、自分の意見は交えずそのまま「……だったんですね」と伝え返します。すると相手の満足度も高まります。最後のレベル3は、相手の話を聞き、話の中から相手はどんな価値観を持っているのかをききとって「……を大切にしているのですね」と返します。これは相手を感動させます。

小川さんは、「自分の態度や聴く姿勢が変わることで相手も変わる、自分が何をして何が期待できるのかについて具体的に目標を持つことが大事」と講演を締めくくりました。

休憩をはさんで、三越伊勢丹グループ労組北海道総括支部の玉谷謙一郎副執行委員長からの報告を受けました。三越伊勢丹グループは「労働時間の削減」を経営戦略として働き方の質の向上を目指しています。北海道でも丸井今井札幌本店の基本営業時間を10時から19時とし、丸井今井と三越の両店で8月に店休日を設定するなど、営業時間の短縮と店休日の設定に取り組んでいます。6月に労使で従業員対象に実施したアンケートでは、全体の9割弱という大多数が「営業時間短縮を実施してよかった」と回答したそうです。様々な視点から働く環境整備を通じ、生産性の向上、接客・販売サービスの向上、多様な人材の活躍推進に取り組んでいる、という報告でした。



最後に、連合北海道の齊藤勉副事務局長がまとめを述べ、集会は終了しました。